平成29年度文部科学省委託事業

新潟市のがん教育

～未来を担う子どもたちのために～

がんは国民の二人に一人がかかる病気といわれています。新潟市の子どもたちにがんの正しい知識を学び，考え，将来の健康維持・増進のために自分と家族の健康のために生涯，幸せな生活を送ってもらいたいと願っています。

●がん教育の目標

1　**がんについて正しく理解する**

がんは身近な病気であり，予防，早期健診・発見について関心を持ち，適切な対処ができるようになります。また，がんを通じて様々な病気についても理解を深めることができます。

2　**健康と命の大切さについて理解を深める**

がんについて学ぶことや，がんに向き合う人との触れ合いを通じて，「健康に生きることとは何か」や「命の大切さ」について考える機会となります。

●なぜ学校でがん教育が必要なのでしょうか

学校における健康教育は，生涯を通じて自らの健康を適切に管理，改善していく資質や能力を育成することを目指しています。

特に日本人の死因第一位であるがんについては，正しい知識の普及が難しく，患者に対しての理解も不十分であることが指摘されています。学校教育でがんについて学ぶことで健康に対する関心がより高まり，正しく認識され，適切な態度や行動をとることが期待されています。

●がん教育の取り組みについて

新潟市の平均寿命は，全国平均や県とほぼ同じですが，病気を長く抱えたり寝たきり期間が長いという特徴があります。

新潟市では「健康を保ちながら長生きする。」

⇒**「健康寿命の延伸」**を重要課題として取り組みをしています。

新潟市教育委員会

新潟市教職員・関係者用リーフレット

●がん教育に関する政府と文部科学省のスケジュール

新潟市食育・花育推進キャラクター
まいかちゃん

	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
政府	**がん対策基本法（平成28年12月16日改正）** ※新たにがん教育について記載 第二十三条　国及び地方公共団体は、国民が、がんに関する知識及びがん患者に関する理解を深めることができるよう、学校教育及び社会教育におけるがんに関する教育の推進のために必要な施策を講ずるものとする。					
政府	**第３期がん対策推進基本計画【平成29年度～平成34年度までの6年間】** **（平成29年10月24日閣議決定）** 【個別目標】 国は、全国での実施状況を把握した上で、地域の実情に応じて、外部講師の活用体制を整備し、がん教育の充実に努める。					
文部科学省	がん教育の実施状況に関する全国調査 【委託事業】 ・教育委員会等によるがん教育用教材の作成 ・専門医等の講師派遣 ・教職員用研修会の開催　など **◆新学習指導要領に対応したがん教育の普及・啓発** **◆地域の実情に応じたがん教育の実地** **＜取組例（平成30年度実施予定）＞** **○新学習指導要領及びそれぞれの地域の実情に応じたがん教育の取組を支援。** ・がん教育総合支援事業の実施【委託事業】 **○新学習指導要領を踏まえた教員や外部講師の質の向上。** ・教員、外部講師に対する実践的ながん教育研修会の実施 **○先進事例の全国への普及・啓発。** ・先進事例の紹介等を行うシンポジウムの開催					
文部科学省	**学習指導要領改訂関係（予定）**					
文部科学省	小学校	周知・徹底	先行実施	全面実施（平成32年度～）		
文部科学省	中学校	周知・徹底	先行実施		全面実施（平成33年度～）	
文部科学省	高等学校	改訂	周知・徹底	先行実施		年次進行で実地（平成34年度～）

医師やがん経験者等を外部講師として活用し、がん教育のさらなる充実を図る

中央教育審議会答申（平成２８年12月21日）（抜粋）

○科目保健については，**個人及び社会生活における健康・安全についての総合的な「知識・技能」，「思考力・判断力・表現力等」，「学びに向かう力・人間性等」の育成を重視する観点から内容等の改善を図る。**その際，少子高齢化や疾病構造の変化による現代的な健康課題注186の解決に関わる内容や，ライフステージにおける健康の保持増進や回復に関わる内容及び一次予防のみならず，二次予防や三次予防に関する内容を改善するとともに，人々の健康を支える環境づくりに関する内容の充実を図る。また，科目体育と一層の関連を図り，心身の健康の保持増進や回復とスポーツとの関連等の内容等について改善を図る。

（注１８６）
死因として最多はがんで，第２位が心疾患であり，これらの生活習慣病などは，死因の約６割，国民医療費の約３割を占めている。また，２０代の死因の半数は自殺で，その動機や原因の約４割が仕事関連の悩みとうつ病によるものと指摘されている。少子高齢化については，若い世代の出産・子育てや高齢化に伴う健康寿命の延伸などの課題が指摘されている。

新潟市の取り組み

【平成２８年度】
・文部科学省開催「がんの教育総合支援事業成果報告会」に参加し、学校保健研修会で伝達講習
・がん教育関係者会議（３月２日）
　大学教授１人，市学校保健会会長（小児科医）１人，がん専門医１人，新潟市医師会（産婦人科医）１人，保健所１人（健康増進課），学校関係者学校長３人（小･中･高），養護教諭２人（小･中），保健体育教諭１人（高），教育委員会４人

【平成２９年度】　文部科学省委託事業
・推進校２校（大江山中学校・万代高等学校）での実践
・がん教育推進協議会（６月８日，２月１９日）
　大学教授１人，市学校保健会会長（小児科医）１人，がん専門医１人，新潟市医師会（産婦人科医）１人，緩和ケア認定看護師１人，メディカルソーシャルワーカー１人，保健所１人（健康増進課），ＰＴＡ１人，患者会代表１人，学校関係者　学校長３人（小･中･高），養護教諭３人（小･中･高），保健体育教諭３人（小･中･高），教育委員会６人

●健康教育の一環としてのがん教育

新学習指導要領における「がん」に関する部分

小学校

【領域：特別活動（学級活動）】

（2）日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

ア　基本的な生活習慣の形成

ウ　心身ともに健康で安全な生活態度の形成

【第５学年及び第６学年】教科：道徳

D　主として生命や自然，崇高なものとの関わりに関すること

［生命の尊さ］　生命が多くの生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し，生命を尊重すること。

中学校

【第２学年】教科：保健体育（保健分野）

2　内容

（1）健康な生活と疾病の予防

ア（ウ）生活習慣病などは，運動不足，食事の量や質の偏り，休養や睡眠の不足などの生活習慣の乱れが主な要因となって起こること。また，生活習慣病などの多くは，適切な運動，食事，休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践することによって予防できること。

3　内容の取扱い

（3）内容の（1）のアの（イ）及び（ウ）については，食育の観点も踏まえつつ健康的な生活習慣の形成に結び付くように配慮するとともに，必要に応じて，コンピューターなどの情報機器の使用と健康との関わりについて取り扱うことも配慮するものとする。また，がんについても取り扱うものとする。

㋑がんの予防

がんは，異常な細胞であるがん細胞が増殖する疾病であり，その要因には不適切な生活習慣をはじめ様々なものがあることを理解できるようにする。

また，がんの予防には，生活習慣病の予防と同様に，適切な生活習慣を身に付けることなどが有効であることを理解できるようにする。なお，㋐，㋑の内容と関連させて，健康診断やがん検診などで早期に異常を発見できることなどを取り上げ，疾病の回復についても触れるように配慮するものとする。

【教科：道徳】

D　主として生命や自然，崇高なものとの関わりに関すること

［生命の尊さ］　生命の尊さについて，その連続性や有限性なども含めて理解し，かけがえのない生命を尊重すること。

［よりよく生きる喜び］　人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し，人間として生きることに喜びを見いだすこと。

がん教育実施の手順

企画 → 打合せ → 準備

	企画	打合せ	準備
学校内	保健主事や授業を担当する保健体育教諭や学級担任などを中心に核となる教員を決め，関係教職員と連携しつつ，がん教育を企画する。 ・どんなテーマで ・いつ	がん教育の実施に向けて，教職員の共通理解を図り，実施内容等について話し合う。また，教科書やがん教育にかかわるビデオ，パンフレットなどの資料を準備する。	当日児童生徒に配布する資料や使用する視聴覚教材を準備する。 必要な場合には事前学習・事前指導等を行う。
※外部講師を活用した場合	がん教育の企画に合わせて，関係機関に講師の派遣を依頼する。 ・講師選定 ・事前打診 ・正式依頼状送付 ・打合せ日程調整	がん教育の講師予定者と当日の指導内容や指導方法について打合せを行う。 ・詳細な日程 ・講師と学校の役割分担 ・準備品 ・指導上の留意事項の確認	資料や視聴覚機材についての最終確認を行う。 ・講師と教員との役割分担の確認

●がん教育参考資料・教材について

＊がん教育教材（平成28年4月　文部科学省）
＊がん教育教材を活用した指導案（平成28年4月　文部科学省）
＊外部講師を用いたがん教育ガイドライン（平成28年4月　文部科学省）
＊高等学校「健康な生活を送るために」（文部科学省）ホームページ
＊公益財団法人日本対がん協会教材作成資料
＊国立がん研究センターがん情報サービス
＊新潟市教育委員会保健給食課　がん教育のＤＶＤ（貸出）
＊新潟県のがん対策　新潟県ホームページ
＊子どもと大人のがん教育　がんってなに？(大阪南医療センター)

●新潟市　がん対策関係機関

＊新潟県健康づくり財団
＊認定NPO法人：ハートリンクワーキングプロジェクト
＊新潟市保健所健康増進課，各区健康福祉課

関係機関へのお問い合わせは保健給食課へ

がん患者さんの手記（独立行政法人国立がん研究センター　がん対策情報センターパンフレットより）

がんは，いまやありふれた病気です。誰が悪いのでも何が悪かったのでもありません。なったことを思いわずらうのでなく，これからのことに目を向け，自分にとってよいと思う方法で立ち向かい，付き合っていけばよいのだと思います。それぞれのがん体験にひとつとして同じものはありません。一人ひとりの選択が後から来る患者さんたちの道しるべになっていくのだと思います。がんという病気に出会ったために身体的に損なわれる部分があったとしても，自分そのものは何も損なわれません。厳しい状態に直面した時，あなたを助けてくれる人は必ずいます。苦しい時は「助けて」と言ってください。それに応えてくれる人がいます，応えてくれるものもきっとあります。あなたはひとりではないのです。

お問い合わせ

新潟市教育委員会
保健給食課

〒951-8550　新潟市中央区学校町通1番町602番地1
電話　025－226－3206
FAX　025－230－0436
E-mail　hokyu@city.niigata.lg.jp

K.sakai

（平成30年2月発行）

平成29年度　がん教育推進校〈新潟市立大江山中学校〉

★保健体育科での実践

1　保健体育科教諭と養護教諭が
　チームティーチングで実施
2　文部科学省スライド教材使用
3　グループワーク(ファシリテーション)
4　江南区健康福祉課との連携
5　将来について考え，実生活につなげる。
6　命の大切さ，支え合いの精神を学ぶ。

グループワークでポイントをまとめました。

集中してがんについて考え，話し合っています。

★がん教育講演会
　フリーアナウンサー　伊勢みずほ　氏

生徒のアンケート結果　より

・がんの学習は，健康な生活を送るために役立つ。
　事前 87.3%　→ 事後 100%
・早期発見した方が治りやすい。
　事前 87.3% → 事後 100%
・がんになっている人が過ごしやすい世の中にしたい。
　事前 82.1% → 事後 90.9%

1　がんに関する知識理解が深まり，認識の変化がみられた。
2　生徒から家族へのがん予防啓発につながった。
3　がん患者への共感的理解を深め，支え合いや命の大切さについて理解することができた。
4　指導時間の確保，教材・資料の工夫，配慮すべき対象者へのフォローについて検討が必要である。

平成29年度　がん教育推進校　〈新潟市立万代高等学校〉

★ がん教育講演会

生徒のアンケート結果より
がんになると治らない確率が高い。
事前 57.3% → 事後 12.3%

がん教育講演会
新潟大学医学部　青山英史　教授

★ 人権同和教育　「がん患者さんと共に生きる」

講演会（学校行事：人権教育）
新潟市民病院
・工藤満美子　緩和ケア認定看護師
・押見将孝　医療福祉相談員

1　がんに関する生徒の受け止め方が変わった。
2　がん患者への心の支え方を学ぶ機会になった。
3　自分の生活を見つめ直す機会になった。
4　小・中・高での段階的な教育の明確な役割分担が必要である。
5　がん教育での配慮事項への対応を検討する必要がある。
6　外部講師の確保，資料の精選をしていく必要がある。

がんの印象が変わった！！

生徒の感想文より

・広島、長崎の原爆のイメージもあり、「放射線」にはあまり良いイメージがなかったが、使い方によってはとても心強い物になると知り、こんな見方もあるのかと感動した。これまで、がんの治療は手術のイメージが強くとても怖いと感じていたし、手術できないと治らないとも思っていたイメージが一気に変わった。

・緩和ケアによって、少しでも患者さんの心を楽にさせてあげようとする看護師さんの仕事は素晴らしいものだと思いました。認定看護師さんのお話を聞いて、自分が普段から人への接し方をもっと考えて接すれば、よりよい関係を築くことができるのかもしれないということを講演会を通じて学ぶことができました。今回の講演を聴けて良かったです。

みんなでがん教育を進めていきましょう。